

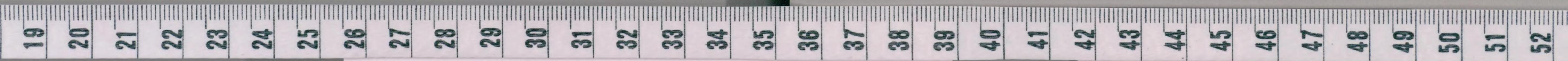
奥羽

行脚集

周月庵

秋

別12  
18











国立国会図書館 タイトル『奥羽行脚集』 請求記号 本別12-18

ガラス使用



国立国会図書館

昭和二十二年  
五月  
十日

栄彦画

国立国会図書館



越後  
司鈴木屋  
塩澤

19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52

国立国会図書館 タイトル『奥羽行脚集』 請求記号 本別12-18

ガラス使用



と年安水四し末の秋鼠角先道へ真  
 羽清とて自ら行の足跡をさし置  
 よ唐人の扱方より物り向く偏居も  
 く法よ野へ遊清も申されし自  
 及ちと新のよと半留老人の師命  
 せに杖のこの外用とやられし位  
 中居を旧法の人へしはまゝと  
 論お



19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52



山行よかゝるまじし〜志懐ら〜思ひ

山〜行〜が〜道〜の〜り〜り〜り〜り

野よまよむまじし〜おの杖うり

和名鉄の主人よ〜の〜り〜り〜り

お〜と〜ち〜あ〜の〜白〜と〜ま〜ま〜

物影やあ〜杖〜が〜り〜り〜り

月〜あ〜り〜り〜り〜り〜り

山行の月〜り〜り〜り〜り〜り

月〜の〜り〜り〜り〜り

指お〜り〜り〜り〜り〜り

物影やあ〜り〜り〜り〜り

山行〜り〜り〜り〜り〜り

山〜り〜り〜り〜り〜り

奥尾

耕星

物水

物水



七月一日 北条へ 藤原の屋敷  
掛山

雪のり 雨のり 池のり 物月 牧歌

首途を 道に 催波の 海に なる こと なる

出づる こと なる こと なる こと なる こと

なる こと なる こと なる こと なる こと

雪のり 雨のり 池のり 物月 牧歌

なる こと なる こと なる こと なる こと

なる こと なる こと なる こと なる こと

なる こと なる こと なる こと なる こと

なる こと なる こと なる こと なる こと

なる こと なる こと なる こと なる こと

なる こと なる こと なる こと なる こと

なる こと なる こと なる こと なる こと

なる こと なる こと なる こと なる こと



浦依の里防門に世々の雲傷りぬに吾母子あ  
らうく丸十のり

津風の雲のり物も指のよ

城のりまのり入のり

日影のりまのり母のり

おさゆのり一房のり

行船のり声のり

津防

流のり一房のり

言のり一房のり

葎々

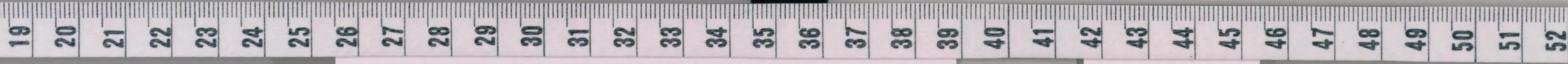
片のり一房のり

心のり一房のり

心まを値る月の裡に

心まを値る月の裡に

百里のり





舟の影も消えぬ水に  
六蛙

舟の影も消えぬ水に  
風致

舟の影も消えぬ水に

舟の影も消えぬ水に  
是書

舟の影も消えぬ水に  
縁上人

舟の影も消えぬ水に

舟の影も消えぬ水に

舟の影も消えぬ水に

舟の影も消えぬ水に

舟の影も消えぬ水に

舟の影も消えぬ水に

舟の影も消えぬ水に  
棹サシテ

舟の影も消えぬ水に





川めらるる一好<sup>好</sup>きありて舟もよりのりて

能く舟もよりのりて

船のりし舟のりし舟のりし舟のりし

舟のりし舟のりし舟のりし舟のりし

舟のりし舟のりし舟のりし舟のりし

舟のりし舟のりし舟のりし舟のりし

舟のりし舟のりし舟のりし舟のりし

舟のりし舟のりし舟のりし舟のりし

舟のりし舟のりし舟のりし舟のりし

舟のりし舟のりし舟のりし舟のりし

舟のりし舟のりし舟のりし舟のりし

舟のりし舟のりし舟のりし舟のりし

舟のりし舟のりし舟のりし舟のりし

舟のりし舟のりし舟のりし舟のりし





宮中の上の御座り

昔より及んで御座りの御座り

の御座り

月と日の御座りの御座り

お月と日の御座りの御座り

りし御座りの御座り

よの御座りの御座り

そよよ

そよよと後入ちや

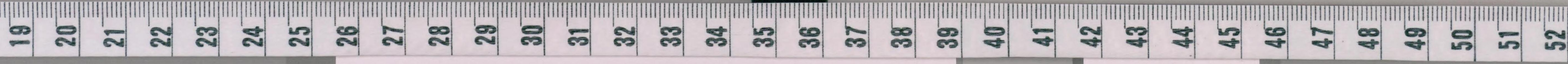
そよよと後入ちや

そよよと後入ちや

ほろろ

そよよと後入ちや

そよよと後入ちや





海に臨むの法はあまのつねのせはあまのつね

うれはあまのつねのつねのつね

トちりりー白のつねのつねのつね

あまのつねのつねのつねのつね

白山権現のつねのつねのつねのつね

のつねのつねのつねのつね

つねのつねのつねのつね

浮城のつねのつねのつねのつね

西のつねのつねのつねのつねのつね

絶つねのつねのつねのつねのつね

あまのつねのつねのつねのつね

昆のつねのつねのつねのつねのつね

あまのつねのつねのつねのつねのつね

あまのつねのつねのつねのつねのつね





友まゝりくはる 例書の燕を

うまの山あり 抄り 抄り 抄り

漢書九月二年 草創 抄りの草原の雲係りて

唐石に書法おとらんゆり

まゝりくはる 抄り 抄り 抄り

あり 抄り 抄り 抄り

海にやぬり 抄り 抄り

まゝりくはる 抄り 抄り 抄り

○ 抄り 抄り 抄り

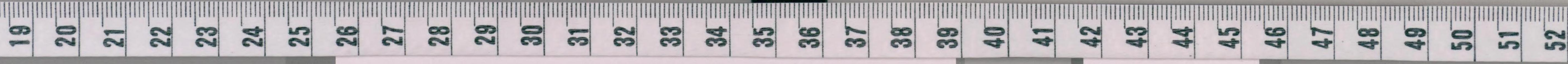
抄り 抄り 抄り 抄り

抄り 抄り 抄り 抄り

抄り 抄り 抄り 抄り

抄り 抄り 抄り 抄り

抄り 抄り 抄り 抄り









村よき草子と流石と書く

夕暮やあふれ流石のまじり

山形抄や一巻しと流石のまじり

流石のまじり流石のまじり流石のまじり

杖とてしるはあまのつねのまじり

羽卒らよし双風よし流石のまじり

小冊のかみり

流石のまじり流石のまじり

流石のまじり流石のまじり

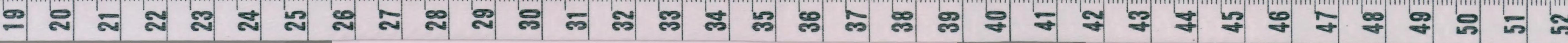
短冊のまじり

流石のまじり流石のまじり

流石のまじり流石のまじり

流石のまじり流石のまじり

流石のまじり流石のまじり





つらきもの 敵も入るやうに

忘るるや 月の中をゆく

柳の影に 影をよこす

物もや 物も 飽きぬ

枯草も 人より ぬる

婿もよ 庵の月をゆく

夜 既の月 十八丁の月 知り

歳モ古稀ニ余ルカ得トトシテ

七一余の老をわづらふ

清きもの 影も 月の中をゆく

来りぬ

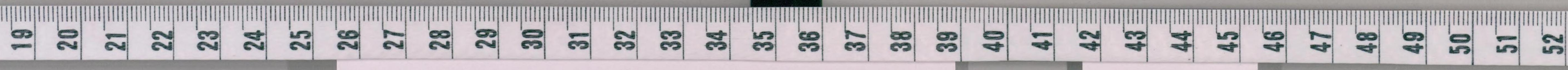
ほら 花の影も 月の中をゆく

か 影も 月の中をゆく

記 影も 月の中をゆく

いよ 影も

符節





千ちりや日かろしき

水城原や 花のよの月 紅葉

十の指はとく味おしよる川さ程

の打戻り指はたなとるも 蒲苔の葉はよ

大 吹うしよふよとろし心こころ

蒲苔のちり

山あがりし 山の湯ろし 蒲苔

花をゆやきりし 伊勢のこころ

和布作の羊皮はよき伏ちの神とく物更

叢の中はよ岩屋のし 是は神の奥の院

し 如く神とくしよちられお殿とすいり

りのき店の上よるるはは昔は福屋奥

刈草の露凍らふ春のよし 沫の物

さいく 神仙の住居らん





昔もあはれの身よ深き夢に

まよひ打らるる山はあつらひしもの左僕<sup>ヨマシ</sup>返

りしはなれ

山踏くは朝の露のまは

羽之形も未は白のこの木のつらよはな

ろと詠るのこの木の又村のあり<sup>トハヤ</sup>宿屋

よまきかへる宿の娘よけとつらよはな

四月よ色もつらんきよ

ちの又やつらよはな月あつら

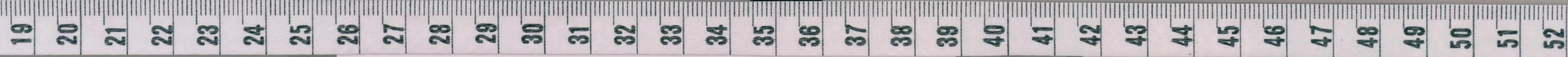
枕よりより若草をあらとよはなつら

高の山と離れしなれまはりのまはな

晴れのまはりのまはな

地よ白地よ秋のまはな

湯田川に羽川より一の区ありし所









柳を流し、秋と清き水

ゆきしをがらむは

松のあけぬく法も

城りと詠き羽皇山のあま

ゆきく松のあけぬく

眠りよ

夢や破れく松の

まろくく

子あはよ

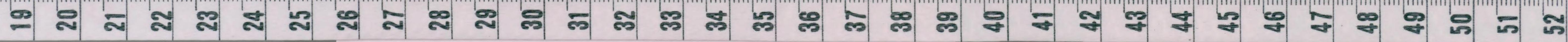
羽皇の入口、お林太

江戸保何の系、

中らに云も

法食の

池の

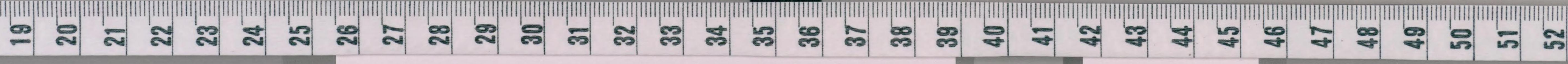




つらけと雲の底に雲の影に牛車と可なり  
のり方既に薄くかゆみの妙信とやまはつた  
感後神とよみし一沫流す成るのやうに  
観音かゝるがく止るゆき人と水と下る  
石まじり射流すは山と大日のそ像り安  
まじし巨細のきりりよ名まの思ひす  
かまらぬ

おまらぬ 朋とのかさぎ 俳句

夫より羽黒大提院の袂代をれれ名鬼侍  
怖くおねのるる健之院にたると  
白のふりよしつれれ雲は何なる  
品評とほろくはし秋の  
すのこに月山雲代こころにねる  
えどし山と云ふおねのあつた  
のち早くとくまの晴は





せうつゝのつゆのをとたどり山は

十二のせうつゝのつゆのをとたどり山は

山を眺めおはなす中身の清くは

雅に聴くさうの里はあはれをせよ

らげらるゝれしはりわく

あはれをせよ

あはれをせよ

あはれをせよ

あはれをせよ

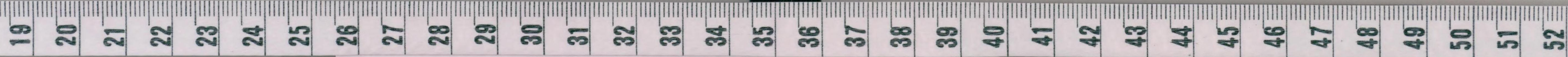
あはれをせよ

あはれをせよ

あはれをせよ

あはれをせよ

あはれをせよ





岩波峰と後色一々暮々しく日影の十

一人の暮西よりかゝる早急の影の

白雲のちきりや女のうら

日影の中ふかく倒るゝ人のうら

心はあつちやうとて

こゝろ小なとたりとてや

こゝろ小なとたりとてや

こゝろ小なとたりとてや

こゝろ小なとたりとてや

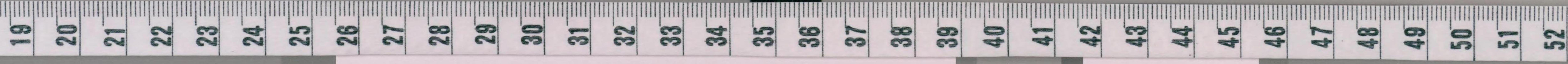
こゝろ小なとたりとてや

こゝろ小なとたりとてや

こゝろ小なとたりとてや

こゝろ小なとたりとてや

こゝろ小なとたりとてや





おぼろげな山をのぞいて

あふくはるのふゆの山

晩鐘のほろけの山

八丁四の谷雜叢

山登りては百院建り

春のふゆのあふく

海にわたりて入る

あふく

あふく

あふく

あふく

あふく

あふく

あふく

あふく



あめす 雉鳴り

山川やあまのさとにぬれぬ枝も枯

中も昔の行人の足とまよひ日影のほれ

いりばあまのさきへさきへさきへさきへ

流したるうらみ

おののきやうらみもあまのさきへ

あまのさきへさきへさきへさきへ

幾年のまよひとあまのさきへ

とりのうらみはさきへさきへさきへ

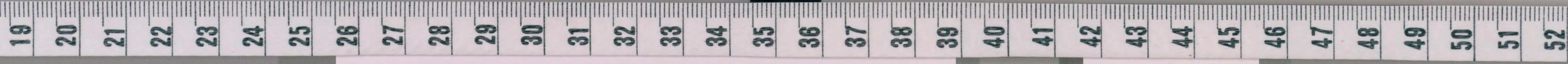
あまのさきへさきへさきへさきへ

いりばあまのさきへさきへ

うらみのまよひとあまのさきへ

あまのさきへさきへさきへさきへ

あまのさきへさきへさきへ





さうらうーあふぬけの島のみ

はたの仙居のなるささき真のけしきなり

はたのけしきささき真のけしきなり

夢日はも存所よりなりとてはたのけしきなり

あやふれしてはたのけしきなり

よれとてはたのけしきなり

短冊の白

あふぬけの島のみ

短冊の白

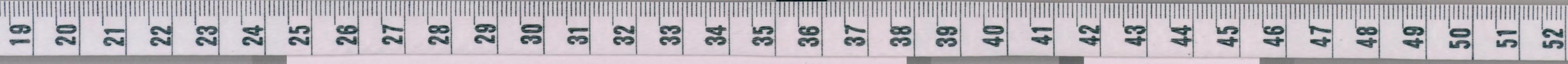
こころなりけしきなり

あふぬけの島のみ

あふぬけの島のみ

あふぬけの島のみ

あふぬけの島のみ





門大なる黄瀬泉にして烟泉は所生草の影  
けり山の前のはまの城の地は洗ふく馬  
光亭と云ふ有るは深き少くはせしむ川末の松  
山並田のむは信濃松島金山山岩壁相馬の  
海をさすく一目よらんや於て七日東照の御  
廟へまふりく塩屋へしぬり道の行なり  
芝山り龍寺斗入くは水首多き城はよ

壺の石舟く真州す一の古はし古き尺斗  
横幅やん糸の月糸の形なり

銘曰

- 去京一千五百里
- 去蝦夷国界一百七里
- 去常陸国界四百七里
- 去下野国界二百七古里
- 去靺鞨国界三十里

多賀城



西

此城神龜元年歲次甲子按察  
使兼鎮守將軍從四位上勳四等  
大野朝臣東人之貽置也天平寶字  
六年歲次壬寅參儀東海東山  
節度使從四位上仁部省卿兼  
按察使鎮守將軍藤原惠美  
朝臣榕條造也

天平寶字六年三月日

美しき石濱り湖上壺の石

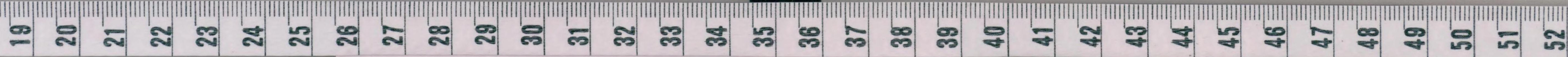
其石より行はるる知事の時を

乃々

おのれとともくはるる色の時

柳此垣電の石の自雲の宮

社此垣電の石の自雲の宮





権況の影のり一冊中流をり一権電公田  
此の権況のり一冊中流をり一権電公田  
此の権況のり一冊中流をり一権電公田  
此の権況のり一冊中流をり一権電公田  
此の権況のり一冊中流をり一権電公田  
此の権況のり一冊中流をり一権電公田  
此の権況のり一冊中流をり一権電公田  
此の権況のり一冊中流をり一権電公田  
此の権況のり一冊中流をり一権電公田  
此の権況のり一冊中流をり一権電公田

せよ用ひりり

海士の芥一権電公田

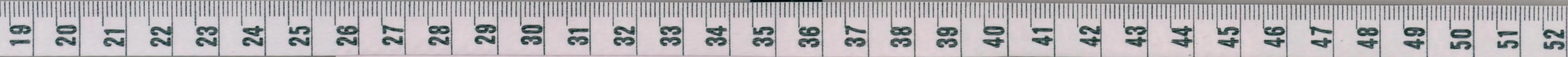
此の権況のり一冊中流をり一権電公田

此の権況のり一冊中流をり一権電公田

此の権況のり一冊中流をり一権電公田

此の権況のり一冊中流をり一権電公田

此の権況のり一冊中流をり一権電公田









八 松白やぶのふきものうきものり

くしんてんの日あつしむよけし

まより運舟を仙臺を所とみ星まじりたれ

しきへの松山北白のむら海老と有宮林せ入り

ちびきのち有海老と有宮のゆんとうをた

物なや誰。らやうきものし

宮林せ入りしきへの松山北白のむら海老と有宮林せ入り

しきへの松山北白のむら海老と有宮林せ入り

一 松白やぶのふきものうきものり

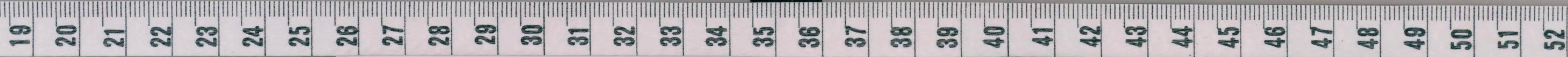
まより運舟を仙臺を所とみ星まじりたれ

しきへの松山北白のむら海老と有宮林せ入り

くしんてんの日あつしむよけし

まより運舟を仙臺を所とみ星まじりたれ

しきへの松山北白のむら海老と有宮林せ入り









徳妻や 持子 一の松之

女川より越後の早川 徳丸信忠信の妻

女道甲より 徳丸信忠の妻 徳丸信忠

徳妻や 持子

一の松之

海より 徳丸信忠の妻 徳丸信忠

又 徳丸信忠の妻 徳丸信忠

ふと 徳丸信忠の妻 徳丸信忠

西のちん 徳丸信忠の妻 徳丸信忠

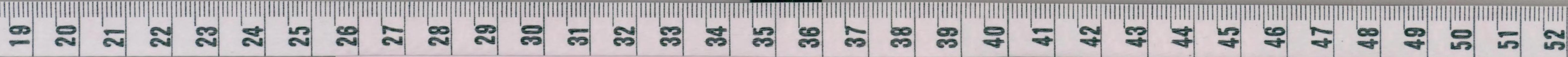
徳丸信忠の妻 徳丸信忠

一 徳丸信忠の妻 徳丸信忠

右の 徳丸信忠の妻 徳丸信忠

右の 徳丸信忠の妻 徳丸信忠

右の 徳丸信忠の妻 徳丸信忠









二之所斗のまうねいまきりいといほゆらぬ

なまはぬんものなまはぬまはぬ山とらん流

いれう釣缸のあふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

缸まきくまきくまきくまきくまきくまきく

福島の入口まきくまきくまきくまきくまきく

のまきくまきくまきくまきくまきくまきく

徳島やふふふふふふふふふふふふふ

昔まきくまきくまきくまきくまきくまきく

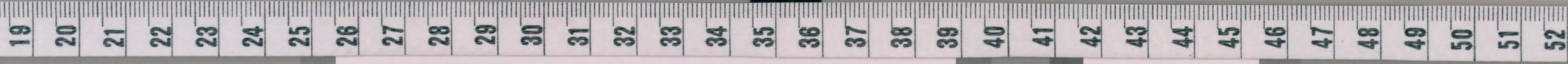
はむのまきくまきくまきくまきくまきく

二羽田をまきくまきくまきくまきくまきく

直にあり世俗まきくまきくまきくまきくまきく

みわうりまきくまきくまきくまきくまきくまきく

まきくまきくまきくまきくまきくまきくまきく





はらうひく片のサトヤ行見ひ

まよ原の川にぬ入りよ何ちと今片の信れ

万代山區のちかり白河の入口橋をく廿月より

信をそ司の味はちややうなうれしきと信

るの信をく廿月より

の信をく廿月より

おはらうひく片のサトヤ行見ひ

信をく廿月より

おはらうひく片のサトヤ行見ひ

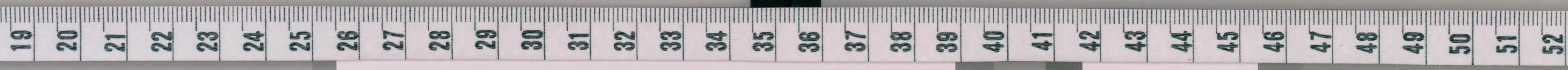
信をく廿月より

おはらうひく片のサトヤ行見ひ

信をく廿月より

おはらうひく片のサトヤ行見ひ

おはらうひく片のサトヤ行見ひ





のさのほのちり柳の  
ふたりのついでに

山は西上人のちんた  
まはちのちんた

法書のしやうの  
ちんたのちんた

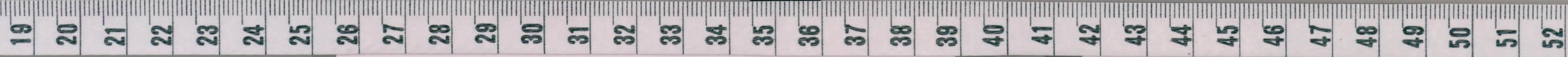
ちんたのちんた

のちんたのちんた

のちんたのちんた

のちんたのちんた

のちんたのちんた





あやかし ちいさくは ぼんぼん

あやかし ちいさくは ぼんぼん

あやかし ちいさくは ぼんぼん

あやかし ちいさくは ぼんぼん

あやかし ちいさくは ぼんぼん

あやかし ちいさくは ぼんぼん

あやかし ちいさくは ぼんぼん

あやかし ちいさくは ぼんぼん

あやかし ちいさくは ぼんぼん

あやかし ちいさくは ぼんぼん

あやかし ちいさくは ぼんぼん

あやかし ちいさくは ぼんぼん

あやかし ちいさくは ぼんぼん

あやかし ちいさくは ぼんぼん



真らちいふきわりのこととて

秋のくも指をく山法師

世にタリいふまにヨリ山屋ナカラ活る即代は民とて

のいふくうく存ちとてなうつ一ぼくも人矣

のせまアとあふよ唐りかく斗命ちれとてうう中

の四つく団のち権の初とてまきうくうううう月ぬの

流ふちふめし人界の生死とて説く

そまにどの團一洞心も極うれ

勝しく市のおくたるけ星に之ヨリ山中の里られ

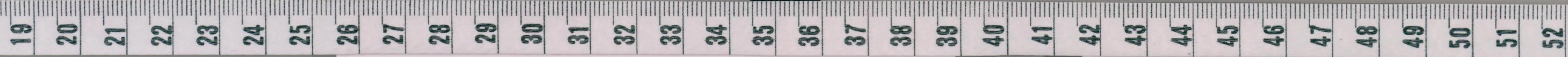
秋の銀のよんもれく只はれをこきう入たりニカ

一この麻のまじりいれとれくをんと早ふくうりり

麻のまじりいれとれくをんと早ふくうりり

まじりいれとれくをんと早ふくうりり

松のヨリいふまにノををとれくうりやう山と名り





一ノノリノ丸ノカケリノ...

あいに...

ト...

...

ト野...

...

永...

御木坊

輪王寺

石鳥井

黒田...

額

後水尾院...

土...

酒井...

二王門

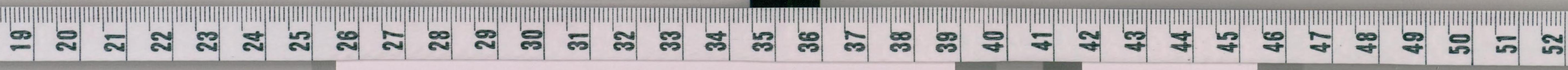
...

御馬屋

...

御平水鉢

...









学頭 修学院僧正

大樂院 龍光院 安養院

無量院 南照院 唯心院

安居院 日増院 遊城院

謹光院 養源院 法門院

寺外並ニ寺一

各所消

瀧ノ尾 清瀧 裏見瀧

新宮 丸多瀧 中禅寺

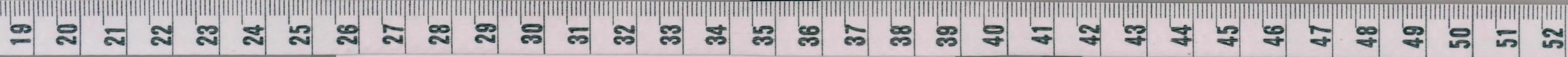
寄瀧 谷藏瀧 岸光

新寺以御本社ニテ

金ノノリ 眼ノノリ 秋ノ旭

日光宮ノ神前ニテ

粉々ノ草ト綿々ノ宮ノ





又より一里余りくうこの所をへる

沢川や橋ふしの湖より

ほろほろのうてーらりる

清風

清風や式おも月のまゝ

音

音のこもる  
音のこもる  
音のこもる

約よりよりをら松丁松中禪寺まき廿六丁甚

距より中禪寺よゆ横一里三里半の湖あり

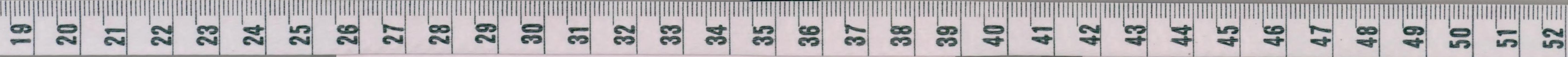
秋風より浮のまこ根う

又約よりよりま原の南のませ尾流ま原成を

山甚るんやうううううううううううううう

の如くぬとのまち洞かろう一の家のまよるう

後約の竹葉と約しての洞云まのくう面あり物





神皇正統記

二かゝるもきんらたれは

不使れ方へ入山は

七日きんらへ入と云

若くははと命を

云わらり

行んの人を

漸くは

守り

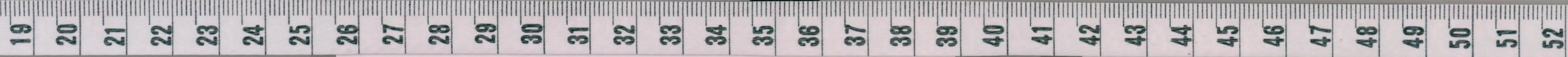
谷へ

在り

ま

日

あ

















ふみの紙にふみ草の葉を散らして  
なまめくちまをまきかへ

秋の日はながく  
あけぼの空はあざやかに

わが心もあやふさふさ  
かきかへて秋の空を

かきかへて秋の空を  
かきかへて秋の空を

南無十部の心  
かきかへて秋の空を

そよ風  
かきかへて秋の空を

あけぼの空  
かきかへて秋の空を

の秋の空  
かきかへて秋の空を

あけぼの空  
かきかへて秋の空を

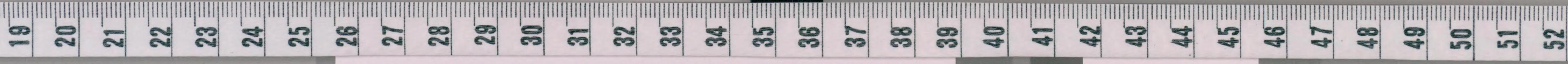
あけぼの空  
かきかへて秋の空を

あけぼの空  
かきかへて秋の空を

あけぼの空  
かきかへて秋の空を

あけぼの空  
かきかへて秋の空を

あけぼの空  
かきかへて秋の空を









秋のたけふしきの湯はるる

雲のたけふしきの湯はるる

一連のたけふしきの湯はるる

たけふしきの湯はるる

まふしきの湯はるる

のたけふしきの湯はるる

たけふしきの湯はるる

初冬のたけふしきの湯はるる

初冬のたけふしきの湯はるる

初冬のたけふしきの湯はるる

初冬のたけふしきの湯はるる

初冬のたけふしきの湯はるる

初冬のたけふしきの湯はるる

初冬のたけふしきの湯はるる



誰かこころをこころにこころをこころにこころを  
誰かこころをこころにこころをこころにこころを

待うけて

帰る燕も

うら



大野渡

落日大江陰

蒼茫野草深

鐘聲何處寺 轉動別離心

越州松ヶ崎船渡

遠客飄零度海臯 地窮天外斗星高

蓬瀛此去誰能到 一片風帆沒太濤

豈湯殿山絶頂



靈嶽最高頂  
朝流心地淨  
情逗明月下  
真信空塵闌  
秋風支杖攀  
晚程行路艱  
身伏白雲間  
長欲寄荆山

寂上川懷古

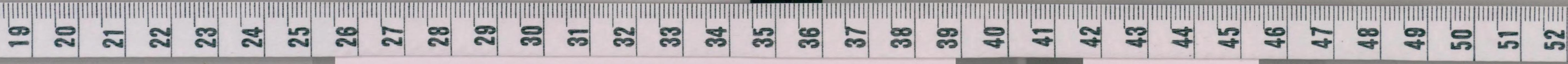
奧越當時割據年  
清平日久紅花地  
縱橫血戰洛誰邊  
變作黃蒼菽麥田

羽列山寺立石寺

高僧卓錫此靈山  
坐怪悲風天未起  
百院相連石壁間  
遙吹西雲散滿塵寰

奧仙臺

萬里烟雲五色中  
分來直御日邊風





誰知屬國諸藩色

總擁仙臺表海東

松嶋

麻姑舊宅日別東

嶋嶼秋清海浪通

輕舟棹去尋仙客

不知身在画圖中

腰掛松

古樹蒼々日未斜

遺哀客恨兩無涯

不奈大風吹又轉

殘劫鶴鴿原上花

白川

室壘雲山合透地

道路難驛樓纖

月墜風冷白河關

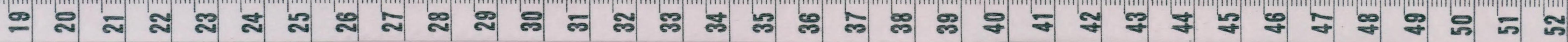
下州日光山

金樓玉客彩雲懸

霞榜高臨映日邊

一向桃林從放馬

長教民庶戴堯天

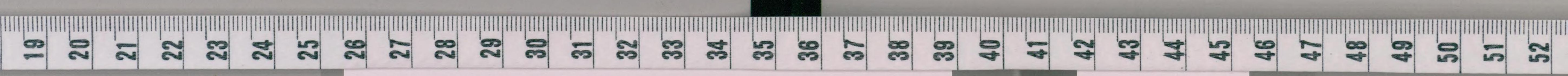




淡路島... 一山... 舟... 目... 重... 石...



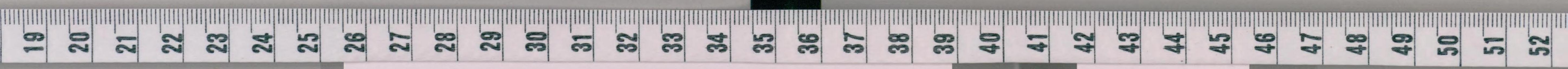
淡路島... 舟... 目...





別12  
18

奥羽行脚集  
奥羽行脚集



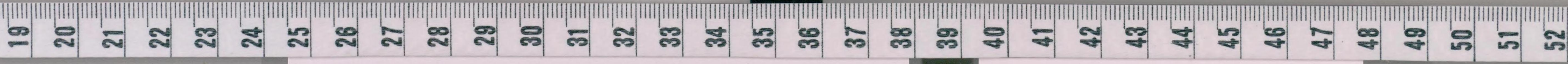
国立国会図書館 タイトル『奥羽行脚集』 請求記号 本別12-18

ガラス使用



別12  
18

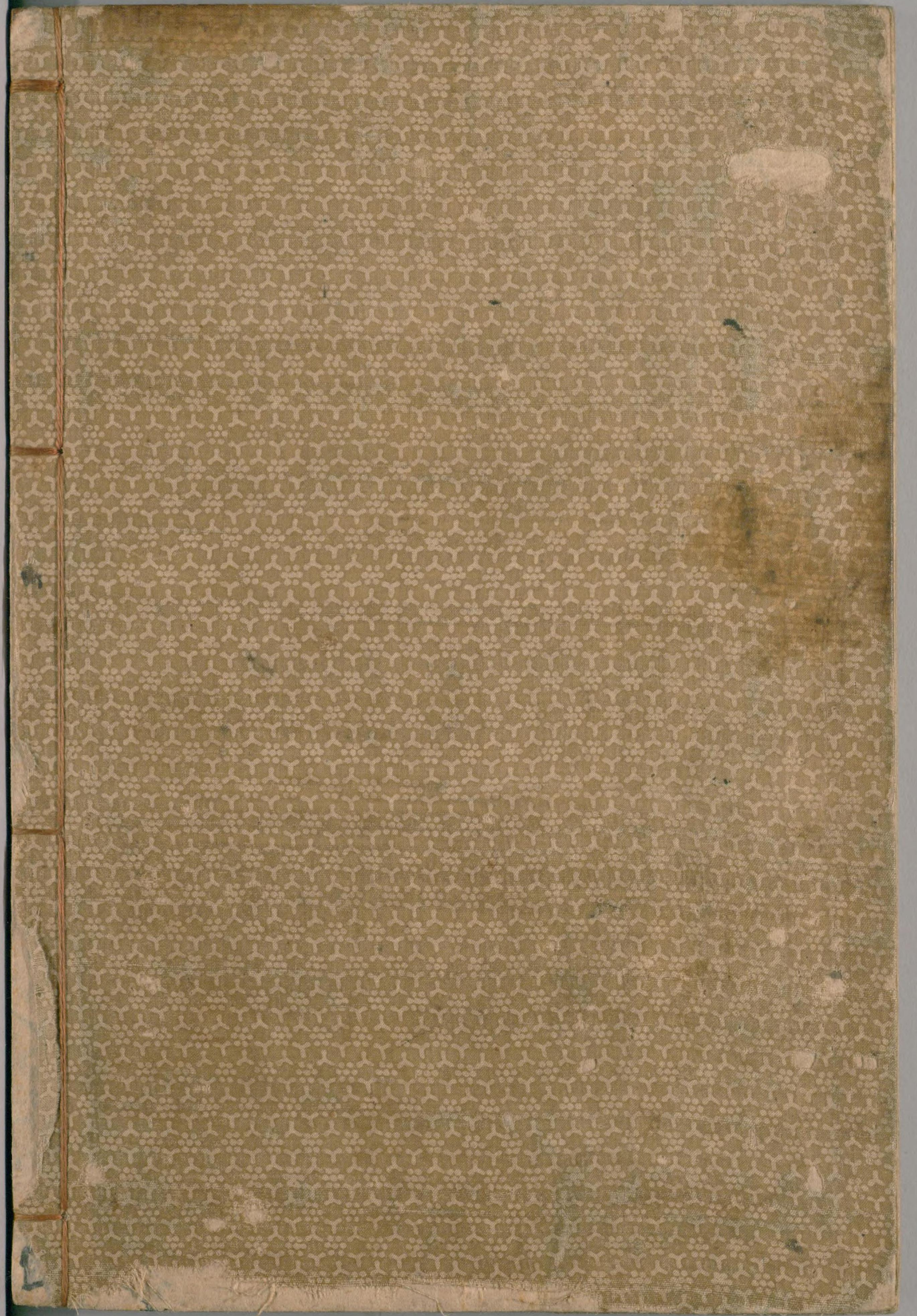
牧水 龍本氏  
牧之の父 龍本氏  
天保三年九月五日  
牧之 龍本氏  
箱儀三品 秋  
埋月



国立国会図書館 タイトル『奥羽行脚集』 請求記号 本別12-18

ガラス使用 挟み込み物





国立国会図書館 タイトル『奥羽行脚集』 請求記号 本別12-18

ガラス使用